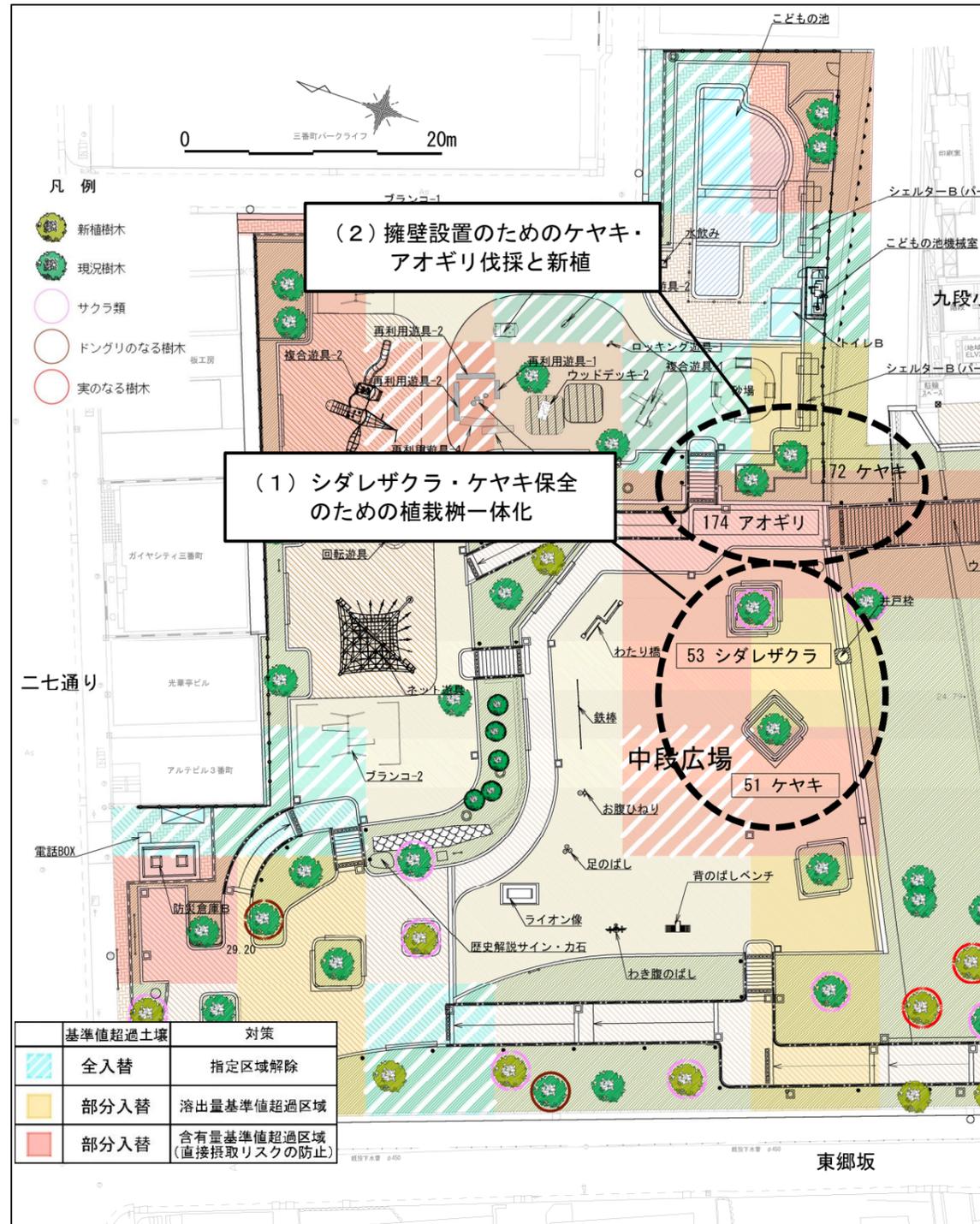


4 保全樹木に関する設計変更について

19回協議会において決定した内容について、さらに以下の2点について変更を行いたいと考えています。

■変更予定箇所図（上・中段広場）

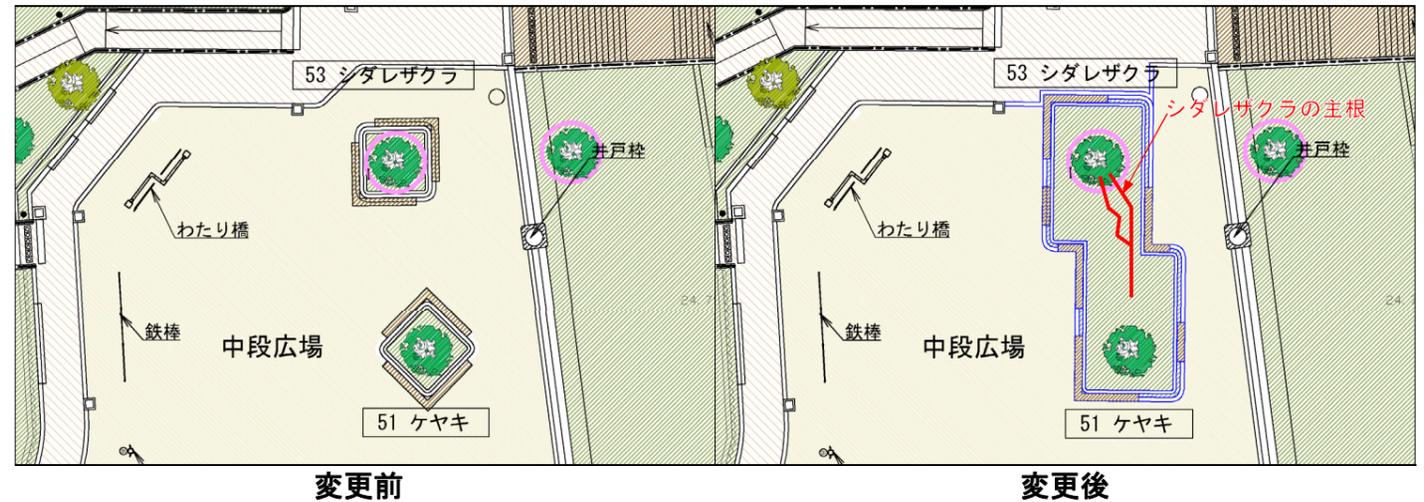


(1) シダレザクラ・ケヤキ保全のための植栽樹一体化（中段広場）

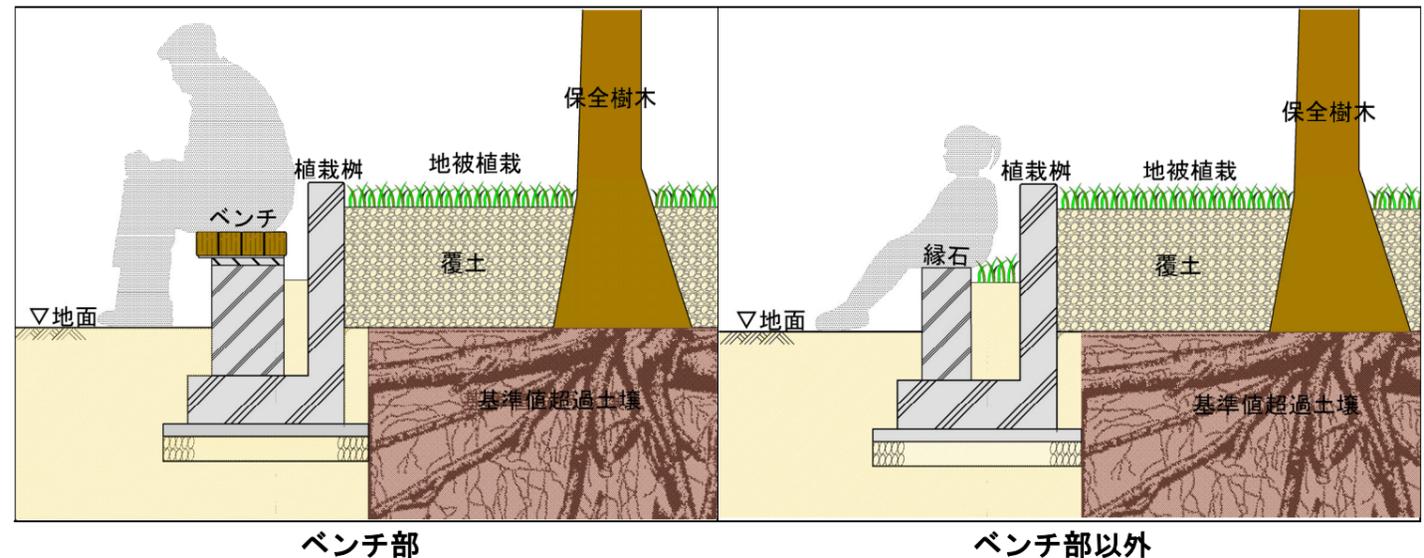
No. 53 シダレザクラの主根がNo. 51 ケヤキ付近まで伸びているため独立していた2つの植栽樹を一体とし、シダレザクラの主根を保全します。



■平面プラン



■標準断面図



(2) 擁壁設置のためのケヤキ・アオギリ伐採と新植(中段・上段広場斜面地)

中段と上段の間の擁壁設置のための掘削により、No. 172 ケヤキおよびNo. 174 アオギリの根の保全が困難なため、これらを伐採してアオギリを新植します。

① 当初設計(改修プラン)からの設計内容の変更点

- 練石積みを大谷石積み(コンクリート+大谷石)に変更する。
- 九段小学校側(写真②)の大石積みにも隙間等が見られたため、小学校側(斜面地側)も再整備を行う。擁壁はより安定した地耐力が期待できる既存の石積み擁壁設置位置より上段広場側に設置する。

② 大谷石積み(コンクリート+大谷石)再整備による保全樹木への影響範囲について

- アオギリ:掘削深さが約2.5mとなり、斜掘をするとアオギリは保全できない。
- ケヤキ:掘削深さが約3.4mとなり、斜掘はできないと共に、矢板等で仮設土留めを行った場合も、中段広場側については現況の2/3程度の根を保全できるが、小学校側についてはケヤキの根の大半を切断することになる。

③ 根の切断によるケヤキへの影響について

樹木の専門家の立ち会いのもと試掘調査(写真③)を行い、上段広場側のケヤキの根の状況について確認しました。その結果、上段広場側に既存の縁石を超えて存在している根はほとんど確認されなかったため、ケヤキの根は主に斜面地側に広がっていると推定されました。そのような状況において斜面側の根を切断した場合、ケヤキの大半の根が切断されることになり、その後の樹木自体の生育への影響や大風による倒木等が考えられ、ケヤキの保全も難しいと判断しました。

④ 保全対象樹木の取扱いについて

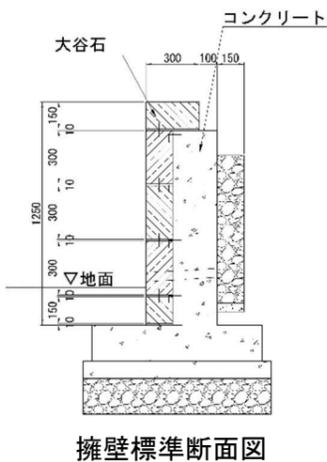
②及び③の検討結果より、今回公園整備を行うにあたり、工事中及び将来にわたり対象樹木の保全環境を考慮すると、対象樹木については伐採を行う方が望ましいと考えます。なお、対象樹木伐採後は土壌汚染対策工事を実施した上で、高木の新植可能となった範囲にアオギリを新植したいと考えています。



No. 172 ケヤキ
(H=12.0m C=238cm W=6.0m)



No. 174 アオギリ
(H=4.0m C=52cm W=2.0m)



■根の存置範囲と擁壁設置による影響

